

糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方に関する検討会

第1回議事要旨

1. 日時：平成29年1月27日（金）10：00～12：00

2. 場所：中央合同庁舎2号館 地下2階 講堂

3. 出席者：

【座長】

・室崎 益輝 神戸大学名誉教授

【委員】

・秋山 昭二 日本消防協会業務部長

・只野 清 千葉市消防局予防課長

・大宮 喜文 東京理科大学教授

・月成 幸治 北九州市消防局警防部長

・小林 恭一 東京理科大学教授

・関澤 愛 東京理科大学教授

・田中 淳 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授

・田村 圭子 新潟大学教授

・生稲 芳博 千葉県防災危機管理部消防課長

・五十嵐 幸裕 東京消防庁警防部参事兼警防課長

・山崎 登 日本放送協会解説主幹

【オブザーバー】

・吉岡 明男 厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部生活衛生課課長補佐

・鈴木 徹 国土交通省都市局都市安全課都市防災対策企画室長

・山口 陽 国土交通省住宅局市街地建築課市街地住宅整備室企画専門官

・千葉 剛輝 気象庁予報部業務課気象防災情報調整室長

・遠藤 博伸 富山県広域消防防災センター副所長兼富山県消防学校長

【地元説明者】

・山田 治之 新潟県防災局長

・土田 克行 新潟市消防局長

・金子 裕彦 糸魚川市総務部長

・大滝 正史 糸魚川市消防本部消防長

・池亀 六男 糸魚川市消防団長

4. 消防庁：長官、次長、国民保護・防災部長、消防・救急課長、予防課長、防災課長、防災情報室長、広域応援室長、地域防災室長、消防研究センター技術研究部長

5. 議事要旨

(1) 運営方法等

本検討会は、糸魚川市消防本部の行っている火災原因調査が完了していない現段階で、未確定の資料も含めて資料を提出していただいた上で議論すること、及び被災者等のプライバシーの保護に配慮する必要があることから、会議については非公開とすることとした。

また、会議後に座長から報道機関に対してブリーフィングを行い、会議資料については資料1、資料2及び参考1を公表し、議事概要を後日公表することとした。

(2) 地元説明

糸魚川市消防本部、糸魚川市、新潟市消防局、新潟県から、延焼の状況、車両・水利の状況、応援活動の状況、出火元の原因、住民避難の状況、消防団の活動状況等について説明。

(3) 意見交換

主な意見は以下のとおり。

- ・ 今回の火災は、強風下や木造密集地域といった条件下では、日本中どこでも大規模な火災になる危険性があるという警鐘であり、このことを教訓とすべき。
- ・ 地形や街なみなどについて、消防力の基準を勘案する要素として入れるなど、消防力の整備指針のあり方を検討すべき。
- ・ 糸魚川市の火災のように木造建築物が密集した地域において、強風下で火災が発生した際の応援要請のタイミング等のあり方について検討すべき。
- ・ 今回の火災では、建設会社のコンクリートミキサー車が消防水利の運搬で活躍した。地域の民間団体等との協力のあり方や、消防水利の確保のあり方について検討すべき。
- ・ 糸魚川市の火災は大規模なものであったにもかかわらず、住民は上手く避難できた。避難誘導や避難勧告の実態を明らかにして、今後活かすべきである。火災が発生した際の住民避難のあり方についても検証の上、検討すべき。
- ・ 酒田の大火では、川沿いに一列に消防ポンプ自動車が部署し、上空に一斉放水して延焼阻止した事例があり、強風下において消火活動を行う際の消防活動戦術について検討すべき。
- ・ 風の強さや湿度に応じて注意を呼びかけるような、火災気象通報を有効に活用する方策のあり方について検討すべき。
- ・ 飛び火着火のメカニズムを研究し、飛び火を防止する検討をするべき。

(5) 次回以降の運営

次回検討会は2月24日金曜日の10時からの開催とする。次回の内容については、第1回検討会における議論を踏まえ、座長と事務局で調整することとした。